2010
J・A・C
秋田山岳
平成22年11月　発行
No.　82
社団法人 日本山岳会秋田支部
秋田市千秋久保田町
2番23号　佐々木方
TEL・FAX018(833)2525
発行者　佐々木　民　秀
編集者　鈴　木　裕　子

▲▲▲▲△ 訪韓登山実施される △△▲▲▲

支部設立五〇周年記念事業

訪韓登山を終えて

◎団長　佐々木　民　秀

秋田支部は、平成二十一年に設立五十周年を迎えた。その記念行事のひとつとして、韓国南部に位置する盤若峰（パンニャボン　一七五一米）と月出山（ウオルチュルサン　八〇九米）の二山を選び、姉妹交流の韓国山岳会慶南支部の協力のもとに実施する予定であったが、直前になっての新型インフルエンザの流行により延期。そして、一年遅れの本年五月に支部員七名の参加で実施した。

二十二日。秋田空港～仁川空港～釜山空港経由で入国。空港では歓迎の花束で出迎えを受け、馬山市で歓迎会を開催して頂いた。（慶南支部参加者二十六名）。

二十三日。慶南支部十七名の案内で、智異山連峰の西端に位置する盤若峰を目指したのであったが、雨のためその絶景は望めず、その上豪雨の予報のため盤若峰は入山禁止となり、老姑壇（ノゴダン一五〇七米）で中止。

夜は韓国の郷土料理プルコギを頂き、エベレスト登頂者である朴相洙氏からヒマラヤ登山報告書を頂いた。

二十四日。光州の南、全羅南道の南端にそそり立つ岩山・月出山に登ったが、一日中ガスの中でせっかくの絶景も残念ながら今日も望めず。下山は絶壁に架けられた吊り橋を渡るコースをとる。

下山後、登山口にあるビジターセンターを見学。職員から月出山の動植物についての説明を聞く。

月出山も老姑壇同様、国立公園として施設が整備されており、鉄階段や橋、救急電話ボックス、案内板等年増すごとに安全対策に力を入れ、整備が進んでいる。

二十五日。馬山市近くにある巨済島海上国立公園（海金剛）を観光。展望台のある弥勒山（四六一米）や五・二十六動乱の博物館等を巡る。

弥勒山はロープウェイで山頂駅に着き、そこから立派な階段が延々と続き、展望台のある弥勒山頂上となる。山頂の展望台から望む景観は、海に島々が浮かび、統営市街が眼下に広がる様は見事なものであった。晴天のもとに多くの観光客で賑わっていた。

夜は秋田での再会を約束し、返礼の交流会を開催させて頂いた。（慶南支部参加者二十六名）

二十六日、早朝から釜山空港に送って頂いて、ソウルに戻り、故曹斗鉉氏のもとに四十年以上に渡って交流を続けている韓国山岳会同友会の裴三鎮氏、李来城氏、李載洪氏、李載成氏の諸氏から懇親会を開いて頂き、慶南支部同様に更なる親交を深め合い、二十七日に帰秋した。

韓国では「懐かしい人に久々に会えると嬉しさのあまりに雨が降る」という諺があるというが、今回は正にその通りの山旅であった。

最後に、親身になってお世話してくださった慶南支部の崔在一支部長、金琦炫、申在鎬の両顧問はじめ、参加くださった慶南支部会員諸氏に心から厚く感謝を申し上げます。

参加者　佐々木民秀　今野昌雄　鈴木裕子　高橋忠雄　寺田新一　柴田勧　伊藤秀雄

交流会　左・崔支部長

訪韓登山報告

柴田　勧

二度目の韓国山行であり、山中泊も無いことから気楽にかまえていて、やっぱり直前になって何時もの如く、バタバタと支度することとなってしまった。

ダッフルバックに山靴、ストック（結局は使わなかった）、三十リットルのいつものザック、それにお土産用にと事前配分された紙パックの日本酒を入れると、簡単に持てる物でなくなったが仕方が無い。乗り物への移動のときだけ我慢すれば、中身の出し入れ、宿でのパックキングは比較的便利だった。

韓国側の親身あふれる対応と、たくましくエネルギッシュな行動力に圧倒される思いの六日間だった。全員に花束を用意して出迎えしてくれた金海空港、高速道路と見分けのつかない広い道路をハイスピードの移動、行き交う車は大半国産車で、軽自動車はほとんど見出せないがっちりした車ばかり。

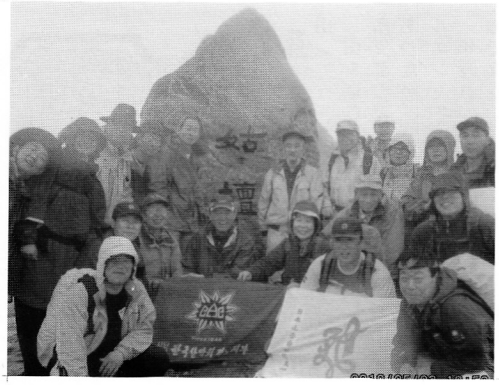
大統領のリーダーシップでの中東での原発受注、貿易立国、サッカーの実力等のニュース見聞きし、考えあわせるとこの国は勢いが違うなと思ったりした。

字も読めず、言葉もわからない我々を、明るく意味不明の冗談を交えて笑顔で対応して頂いた。

記録を担当していて、写真と後で見ればさっぱりわからぬメモで、纏まらず、他の仕事も重なり遅れに遅れ、僅かな記憶に頼ってこれを書いている。

二十三日。当初予定の山行では、老姑壇（一五〇七米）からさらに盤若峰（一七五一米）へと縦走のつもりであったが、前日かなりの雨が降ったこと、さらに当日も雨がやまない事から、草原の岩山・老姑壇で断念するとの事。小雨・ガスの中で盤若峰、さらにはるかに智異山を眺める事が出来たであろう事を想像することよりなかった。

国立公園としてよく管理されていて、雨の中でも多くの人々と行き交い、特に若いハイカーが多いように感じた。



老姑壇　山頂

翌二十四日の月出山（八〇九米）の標高はあまり高くないものの、急傾斜に梯子の多い針岩峰、晴れていれば見事な景観と想像される。下山後車中から晴れ上がってきた山々が徐々に見え出していた。

二十五日は、予定していない三角点の山、弥勒山（四六一米）に登ることが出来た。

巨済島ロープウェイを降り、階段を最上部まで足を伸ばすとそこはあった。

予定外の山は、すばらしいお天気で、大型船が行交う鎮海湾、対馬海峡？等の海上を眺めるその場所で記念写真を撮った。

旅の思い出を書き足せば、まずは宿。ホテルはビジネス風ホテルの二人部屋、何故か片方はダブルベット、もう一方はシングル用、体の大きい今野さんに大きいベットを使ってもらったが、最後のソウルの部屋は、今野さんも気にして交代しようといってきかなかったが、そのままにしてもらった。

バスでは足拭きマットが無い、カーテンが取り付けられていない、バスロープが一人分しかない、テレビリモコンが壊れているなど等、ホテルが変わる度にアピールに行き、実行させる今野さんに感心させられる。日本の最近のホテルもセッティングは外注が多くなりで、こんな傾向だけれど。

食事は、個食と集団食と言わせてもらえるのかわからないが、自分用に割り当てられているときの食事は良いのだが、みんなで同じ器に箸をいれて食べる食方式は馴染めなかった。口に合いそうだと思ったときにはなくなっていたり、向かい側に持っていかれたりと、後で思うとおかしくなる。キムチは毎食出るので食欲のないときでもおいしく食べられた。何が一番かと問われれば、二十三日夜の光州のプルコギ、二十五日ソウルでの遅い昼食、冷麺は特においしかった。

お湯を頂く習慣はないのだろうか。食事のときはほとんど冷水、お湯お茶を飲む習慣はないのだろうか。ホテルで朝食の時、山でのコーヒー用等にと、お湯を頼み、何とか意味が通じたと思ったが、山まで運んだテレモスを開けて見て、水が入っていたのはびっくり、笑いこけてしまった。翌日からはあきらめた。

知らない所だからか、自分で運転していないからか、各車、猛スピードで走っているように感じるのは驚き、赤信号でも走るレーンがあるのも驚きだった。左ハンドル、右側通行でそのようなルールがあるようだが、最後まで理解できずで終わってしまった。

高速道路なのか、一般道路なのか見分けが良く分らないままで走るのに乗せてもらった。町はずれには口蹄疫の常時消毒設置箇所があり、車の下からスプレーで薬液を浴びる、何度かそんなところを通過した。日本のように、にわかに消毒するような事でないようだ。

大きな町辻ではあちこちで、選挙活動風景を見た。人形のような衣装の女性集団が一列応対に並び音楽に合わせ機械的に左右に手を振るのは日本にない風景で珍しかった。

巨済島では、朝鮮戦争当時を展示する捕虜収容所遺跡公園を見学することが出来た。小中学校の頃、朝鮮に飛ぶ

B二十九の大編隊を見上げた事を思い出す。この地の人たちの難儀、国を守ること、戦争にならない様にするには、などと説明を読みながらの一瞬の思考時間であった。

日韓親善会話勉強会。山、観光地移動のため崔在一支部長の車と金仁相さんの車にお世話になった。それぞれの車には、片言ながらも日本語で通訳して頂ける方が乗っており、何とか用を足せるのだが、自分でも相手国の言葉で話してみようと言う気になってくる。

二十五日の巨済島へのドライブでは、申在鎬支部顧問がとなりの席に乗って言葉をかけて頂いた。申さんはものすごい勉強家、自作の日韓対照会話、用語集をメモしており、問いかけに我々も日本語英単語で何とか応えるということで、車内は笑いの絶えない会話が続いた。何も準備をせずに参加した自分が恥ずかしく、大いに反省させられる場面の一つでもあった。

五日間、慶南支部の方々には本当にお世話になった。初日二十二日雨の中での花束と横断幕歓迎出迎え、引き続きの大勢の会員による歓迎懇親会、二十三日多数会員参加サポートの雨中老姑壇登山、下山後光州市に移動して同宿し、地元エベレスト登頂者朴相洙さんも夕食会に参加。この席では朴さんからサイン入り大冊カラー刷登頂記念誌を全員に頂いた。

翌日二十四日の「月出山」登頂後、馬山市に戻り会食、崔支部長宅に案内されお茶を頂く。

二十五日には巨済島へのドライブ観光後のサヨナラ懇親会、感動的な別れ難いカラオケパーティー、二十六日のホテルに見送り、釜山空港搭乗まで

月出山　山頂

と崔支部長、申前支部長他慶南支部の皆さんには枚挙の暇もないほどあらゆる場面で気を使って頂きお世話になった。

又、ソウルでは満載の荷物共々運んで頂き、懇親会他をお世話頂いた李載洪さん、そして同友会の皆さんにも厚く感謝を申し上げる。

たくさんのお土産を頂いた中から「月出山」で実演紹介されたチェアーをこれからの山行に携えて行きたい。

このようなサポートがあって滞りなく終わったが、長い間交流を続けてきた佐々木支部長はじめ諸先輩の日韓交流登山についての努力、経験もあってのことでもあり、敬意と感謝を申し上げたい。

同行の皆さんにはお世話頂きましたこと、深く感謝を申し上げます。

訪韓交流登山雑感

鈴木裕子

秋田支部設立五十周年記念事業のひとつとしての訪韓登山は、平成二十年度総会において承認された。

韓国慶南支部へお願いをし、時期は五月末とし、智異山西方の盤若峰と岩峰の美しいといわれる月出山、そして観光は巨済島・海金剛とした。

慶南支部との連絡は、幸いにも崔在一支部長の義父（奥様のお父様）である裵允淑氏が日本語の出来る方で、日本語での計画案等を裵氏に電話やファックス、手紙で伝え、それを韓国語に翻訳して崔支部長に伝えてもらった。

平成二十一年五月、計画書も出来上がり、出発が近くなってから新型インフルエンザの世界的大流行が始まり、最終的には延期となった。

裵氏は、「インフルエンザは韓国では問題にしていませんよ、キムチを食べていると風邪に罹りませんよ。」と言っていたが、個人旅行ではなく、支部の記念行事なのでやむを得ない決定だったと思う。航空券のキャンセル料等参加予定の会員の方々にはご負担をかけてしまった。

平成二十二年に入り、新型インフルエンザも落ち着いたので、また慶南支部に厚かましくもお願いしたら、快く引き受けて下さったので、本年五月に実施する事になった。

前年作製した計画書を修正し、裵氏に翻訳をお願いしてまた慶南支部と連絡をとり、長岩名誉顧問から頂いた記念手拭や、出来上がったばかりの記念合本等の贈呈品、その他の準備を進めていった。

二十二日、仁川空港に韓国山岳会同友会の李載洪氏が出迎えてくださり、李氏の自家用車のルーフに荷物を積み上げ、金浦空港まで案内して頂いた。

釜山空港での歓迎や、二十三日から二十七日まで韓国滞在中のことは支部長と柴田会員の報告が掲載されているので省かせていただく。

私は平成四年に、秋田太平山・韓国智異山姉妹山締結一周年記念智異山登山のため、交流登山に参加した時から十八年が過ぎた。十八年前、金海空港に着いた時、その歓迎に驚き感動した事が懐かしく思い出される。

それからの交流登山は、五台山・雪岳山、漢拏山・俗離山・鳥嶺山・小白山、徳裕山・伽耶山と続き、太平山、駒ヶ岳や鳥海山への来秋登山や個人旅行等で、慶南支部の方々や同友会の方々と親交を深めてきた。お会いする度に懐かしさが湧き上がる。

今回も崔支部長、申支部顧問始め、慶南支部の皆さま、そして同友会の皆さまには本当にお世話をいただき感謝の気持ちで一杯である。

帰国後、お礼状と共に五十周年記念誌をお届けした。

来年、慶南支部設立二十五周年記念事業として来秋したいとの連絡もあり、再会を楽しみにしている。

支部山行　花の笙ヶ岳へ

伊藤秀雄

七月十一日(日)、今年二回目となる支部山行。天候が危ぶまれたが前日までの雨も上がり、予報では日中雨の確率〇パーセントとのことで決行する。

集合の鋒立駐車場には予定より早く着く。駐車場は高速無料化の影響か、他県ナンバーの車が多く見うけられ、団体登山者も多いようだ。

我々一行、一足先に霊峰(七四三米)を目指し後ほど合流するグループを含め二十二名、先頭鎌田、中間佐々木(民)、各リーダーのもと、午前八時三十分頃、予定時刻より三十分早く象潟口鋒立コースより入山開始。一行皆元気な足取りに常日頃より体を鍛えられていることが伺える。

石畳の諸所石敷き道を上ってゆく、白糸の滝展望台、そして県境の標柱を超えて、お隣り山形の地に足を踏み入れる頃より、「おらーこえぐなってきたでえあ、…　もうすこしゆっくりあべでえあー。」

小一時間ほどして六合目賽の河原に到着。一休みして水分補給する。ここから小浜へのコースと別れ、未だに多く残る雪渓の冷気を浴びながら渡り、吹浦口からの愛宕坂コースを横切って、長坂道に至る道を辿ることしばし。

今日の予報最高気温三十七度とか(?)、しかしここは半袖の私にとっては肌寒く感じられ、幸いにも汗ばむことなくてすむ。

愛宕坂を横断し、長坂道に至る池塘のある辺りからニッコウキスゲ、チングルマ、その他私には名前の解らない数々の花々が咲き誇るなか、行く手左側にくっきりと見える鳥海山の山頂をバックにした鍋森を眺めながら三峰へ。

ここでは、ヨツバシオガマ、ハクサンチドリ、チョウカイアザミ、ウサギギク、ツガザクラ、ネバラン、コバイケソウ、ハクサンフウロ等など数多くの花を愛でながらメモを取る人もいた。

二峰も越えやや緩やかに下った所の二等三角点が待つ笙ヶ岳山頂へ、予定時刻より一時間も早く十時四十五分、二時間半程で全員無事たどり着く事が出来た。

笙ヶ岳山頂

三十分ほどの昼食後、支部旗を囲み記念撮影。十一時四十分下山開始、往路を辿り十三時三十分全員無事登山口へ帰着。

今まで我慢していたかのように小粒の雨がぱらついてきた。当初心配していた雨も山行中はなく、又、数多くの花々も見られ、眺望も得られ、無事散会することが出来たのも、参加者皆様方のご協力と日頃の精進のたまものと担当者として感謝致しております。

参加者　進藤昭　佐々木(民)　福田　真坂　今野(昌)　杉山　山川　柳田　鈴木(裕)　鎌田　高橋(忠)　石川　伊藤(秀)　佐々木(長)

会員外　畠山(秀)　佐々木(道)　佐藤(満)　塚田　吉川(昭)　堀井(美)　佐藤(清)　佐藤(修)　熊谷(護)　姉崎

◎支部長会議報告

平成二十二年九月四日～五日
東京多摩センター・パルテノン多摩四階会議室で開催。

事務局長　鈴木裕子代理出席

四日　宮崎副会長の司会で始まり、尾上会長の挨拶は現在本会が抱えている問題、会員の減少、財政力の低下、公益法人への移行問題について話された。宮下前会長の英断で、執行部が若返ったことによる効果も徐々に現れ、現在会員が少しではあるが増加しているとの嬉しい報告もあった。

四つのプロジェクトについては、①公益法人への移行問題は、来年三月の総会で決定、②若年層対策は多いに成果があがってきていて、若干の会員増もある、③山の日の制定の報告　④支部活性化については翌日の支部懇談会での検討が予定されている。

続いて、各支部からの二十一年度～二十二年度上半期事業の報告に入り、秋田支部では、昨年設立五十周年を迎えたことの各種行事、前岳への標柱設置、太平山山開き市民登山へのリーダー派遣、新型インフルエンザで延期になっていた訪韓登山を、本年五月実施したことについての報告をした。

五日　前日に引き続き支部報告の後、事務局からの連絡として

・財務委員会から、支部助成金について報告書の提出が求められ、その用紙が配布されたが、複雑で支部の会計担当が苦慮すると思われる様式であり、私は補助金はいらないからその分会費を下げ、本会及び支部の事務量の軽減を図るべきでないかと意見を述べた。

・インターネット委員会からは、会員管理のシステム、ホームページの更新についての説明があった。

・総務委員会からは、入会のしおりが配布された。以上で支部長会議は終了。

会場を多摩京王ホテルに移動して、十三時から「支部会報担当者会議」、十四時から全国支部懇談会の「支部活性化会員集会」に出席した。

(会報「山」九月号No.七八四参照)

●秋に予定していた台湾北大武山への登山は、台湾南部大雨被害により、林道通行不可のため延期致します。

なお、林道復旧後には実施したいと思いますので、参加希望の方は事務局にお知らせください。